

骨塩定量（骨密度）検査のご案内

骨塩定量検査とは？

- ・2種類のエネルギーのX線を使用して、骨・脂肪・筋肉の量を測定する検査です。
- ・腰椎と大腿骨、もしくは全身を撮影して骨密度を測定します。
- ・測定値は若年成人と、および同年代の平均値と比較されます。
- ・主に骨粗鬆症の診断に使用されます。

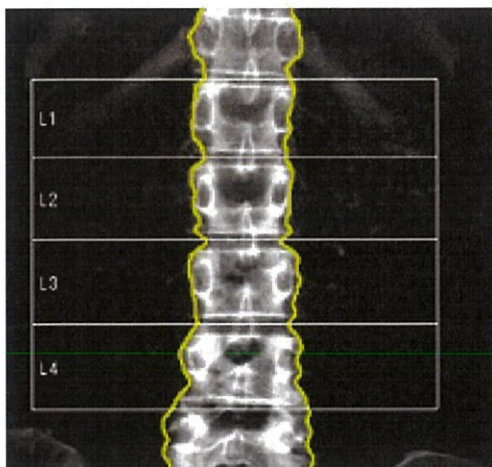
骨粗鬆症とは骨がスカスカになり、もろく折れやすくなる病気です。

骨塩定量検査の注意事項

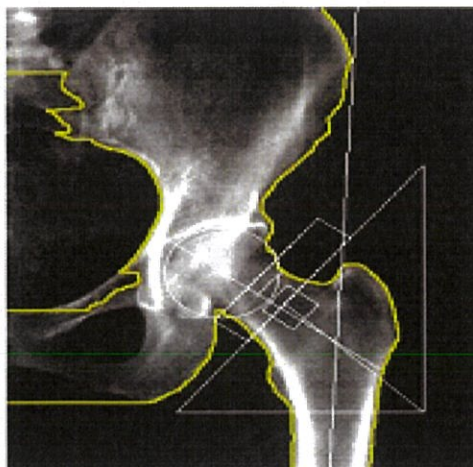
- ・検査前に食事・飲み物等の制限はありません。
- ・妊娠中あるいはその可能性が否定できない方はお申し出ください。
- ・測定部位に金属やプラスチックが含まれると検査結果に影響を与えるため、衣服によってお着換えしていただく場合があります。
- ・放射線を使用した検査ですが、被ばくは身体に影響を与える量ではありません。
- ・検査中は検査台に寝て、呼吸の合図等はありません。
- ・撮影時間は10分程度ですが、測定処理に5分程度かかります。
- ・測定結果を印刷してその場でお渡しします。
- ・検査後に注意事項はありません。

(ほかの検査がある場合はそちらの指示に従ってください)

▼ 腰椎正面



▼ 大腿骨近位部



▲ 撮影装置：
HOLOGIC社 Horizon

国立病院機構北海道医療センター

～ 当院の骨塩定量検査について（ご案内） ～

平素より、当院にご紹介をいただき厚く御礼申し上げます。
当院の骨塩定量検査について、撮影方法等をご紹介させていただきます。不明な点がございましたら、いつでも遠慮なくお問い合わせください。

< 骨塩定量 >

当院ではDXA（Dual-energy X-ray Absorptiometry）法という2種類のエネルギーのX線を測定部位当てることで骨の成分とほかの成分を区別し、骨塩量を測定しています。

検査時間は約10分程度になります。

< 検査によって得られる情報 >

- ・骨折を起こす前の骨減少症や骨粗しょう症の発見
- ・将来骨粗しょう症に罹患するリスクの予測
- ・定期的な測定による骨量減少速度（疾患の進行）の評価
- ・治療の有用性もしくは無効性の証明（治療評価）

< 検査部位 >

腰椎か股関節、もしくは腰椎と股関節両方が検査対象部位です。

過去に検査対象部位の手術を行い、金属が入っている場合は検査できません。

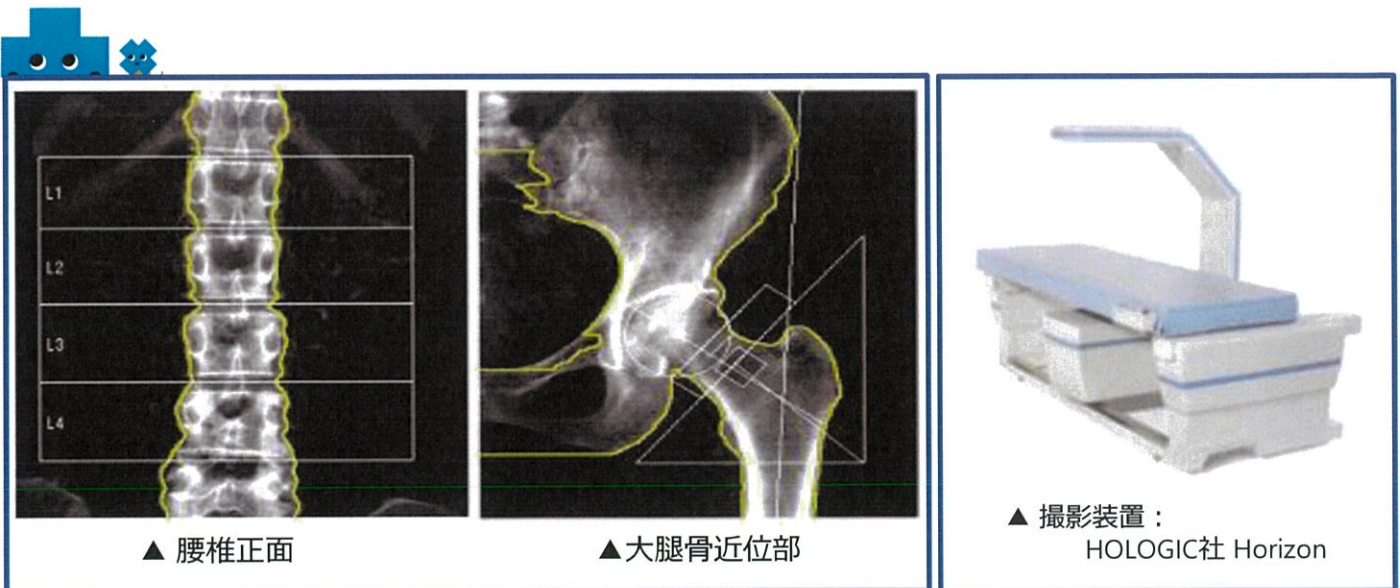
股関節の場合、基本的には左の股関節で検査を行います。

左の股関節に金属がある場合は、右の股関節で検査を行います。

両方の股関節に金属がある場合は検査できませんのでご了承ください。

< 機 器 >

HOLOGIC社製 Horizonを使用しています。



まいにちから、
まんいちまで。



独立行政法人 国立病院機構

北海道医療センター



放射線科

撮影に関するお問い合わせは 011-611-8111 (内線1421)